

第5学年 国語科学習指導案

1組 計29人(男子14人, 女子15人)

指導者 木田 博

1 単元 「地球環境について考えよう」(教材『子ども環境会議』を開こう)光村5年下)

2 単元について

(1) 単元の価値

本単元は、子どもたちが環境に関する課題について調べたことを整理して資料を作り、それらを基に、自分たちの提案や考えを明確に相手に対して伝えることができるようにすることをねらいとしている。加えて「子ども環境会議」という話し合いの場での言葉遣いや発言の仕方を身に付けるとともに、友達の提案や考えに対して「賛成」または「反対」等の意思表示を明確にしなが、理由を付けて自分の意見を発言することができるようになることもねらいとしている。

教材『子ども環境会議』を開こうは、前単元における二つの教材「一秒が一年をこわす」「ホテルのすむ水辺」での学習を通して、子どもたちが地球的環境から身近な生活環境にいたるまで、様々な課題が生じていることを理解した後に、これらを自分たちの課題としてとらえ、その解決に向けて自分たちなりの提案や意見を発表し合い、そしてそれをもとに話し合うものである。

環境に関する認識や態度については、低学年の早い時期から「ごみを道に捨てない」「川や海を汚さない」といった基本的な行動様式から段階的に身に付けてさせていくことが必要であるが、この時期の子どもたちにとってはそれらに加えて、身の回りから地球規模までの多面的な視点をもつことができるようにすることが肝要である。そこで本教材において、子どもたちが身近な環境問題について自分たちなりの解決方法や対策について提案をし、それを基に話し合う活動を行うことは、環境に対しての興味・関心を深めながら、環境の保全及び改善に寄与すべき当事者意識を持つことができるようにする上で効果的である。

また、自分たちで様々な資料を収集したり、それらの中から自己の提案や主張にとって必要なものを取捨選択したりしながら資料をつくる活動を通して情報活用能力を高めることが期待できる。また、「子ども環境会議」での発表を通して、相手に分かりやすいように話したり、意図がはっきり伝わるように主張の内容の構成を工夫したりすることができるようになることが期待できる。

(2) 単元の目標

【◎は単元の重点目標】

- 自分たちの身の回りや社会全体における環境に関する問題に興味をもち、進んで話し合い活動に参加しようとする。 【国語への関心・意欲・態度】
- ◎ 自分たちの提案や考えを資料を示しながら、理由を付けて発表したり、自分たちの立場を明確にして積極的に意見を出したりすることができる。 【話す・聞く能力】
- 会議で発表することを考え、聞き手に分かりやすいように図やグラフ、OHPなど、効果を考えながら資料を作成することができる。 【書く能力】
- 身近な環境問題を解決するために様々な資料を収集し、それらを読み比べながら必要な資料を選択することができる。 【読む能力】
- 「子ども環境会議」という話し合いの場に応じた適切な言葉遣いや話し方ができる。 【言語についての知識・理解・技能】

(3) 児童の実態

本単元に関する学級の実態は以下のとおりである。

【調査人数28人 実施日9月14日、調査方法：質問紙法】

- ① あなたは話し合い活動が好きですか。
とても好き。(7), まあまあ好き。(13), あまり好きではない。(5), きらい(3)
- ② 話し合い活動において、発言するとき大切なこと、気を付けることは何ですか。(複数回答)
声の大きさ(15), わかりやすく話す。(8), 人の話をきちんと聞く。(7), 理由をつけて話す。(3)
すすんで参加する。納得する意見を言う。たくさん発表する。みんなができることを言う。
- ③ あなたは調べたいことがある時、どんな方法で調べますか。(複数回答)
本/図書館で調べる。(23), パソコン/インターネットで調べる。(17), 人に聞く。(12),

辞典／電子辞書で調べる。(4)

- ④ あなたが知っている環境問題にはどんなものがありますか。(複数回答)

オゾン層の破壊／フロンガス(19), 温暖化現象(19), 酸性雨(10), CO₂問題(10), ダイオキシン(6), 騒音(6), 地盤沈下(5), 公害病(4), 自然破壊(4), レッドデータブック(4), ヒートアイランド現象(3), 排気ガス(3), 水質汚染(3) 等

- ⑤ いつも雨が降ると氾濫する川があります。この川の護岸工事を行ってコンクリートで固めようという計画があります。しかし、この川には絶滅が危惧される虫が多数生息しています。あなたは、どうしたらよいと思いますか。理由をつけて答えなさい。

○工事をした方がよい。(安全のための開発優先) → (10)

植物や昆虫を他のところに移して工事すればよい。(6), 洪水によってもっと植物や虫が死ぬことになるから。(2), 人間の命が大切だから, 近くの人々に被害がでるから。(2)

○工事をしない方がよい。(自然保護優先) → (10)

動植物がかわいそう。絶滅するから。(9), 自然は多い方がいい。(1)

○その他(折衷案・代替案) → (8)

コンクリートではなく他の方法で洪水を防ぐ。(6)

本單元に関する子どもたちの実態としては、一学期の単元「話し合って、問題を解決しよう」やその他の話し合い活動を通して、全体的に以前よりも話し合い活動を好むようになってきていると言える。一方では、自分の考えを友だちの前で発表することに対して、「恥ずかしい」「自分の意見を批判されるのではないだろうか」等の抵抗感から、苦手意識をもっている子どももいる。

また、これまでの学習を通して話し合いの場では、声の大きさや分かりやすく話すことの大切さについては多くの子どもたちが理解してはいるものの、それが話し合いの場では上手に実践できないことも少なくない。調べ学習については、ほとんどの子どもたちが何らかの方法で疑問を解決する手だてについては知ってはいるが、本單元で求める多様な資料を収集して活用するという点においては不十分である。

本單元で取り扱う環境というテーマについては、これまでの学習や様々なメディアを通して、断片的ではあるものの多くの知識を得ているが、それらは主に大きな規模での問題が多い。そこで、身の回りの環境について問題意識をもてるような工夫をしていく必要がある。

3 本單元で高めたい「話すこと・聞くこと」の領域における「学び方」

- 目的や意図に応じて、的確に話すこと

ア 身近な環境問題の解決策について、作成した資料を効果的に使いながら、自分たちの主張の意図や根拠を明らかにして考えを述べる。

イ 聞き手に対して自分たちの提案や主張を理解してもらえるように、適切な言葉遣いでゆっくりはっきりと話す。

- 話し手の意図を考えて聞くこと

ウ 他のグループの解決策の発表に対して、相手の立場や意見を尊重しながら聞く。

エ 自分たちの解決策との違いや共通点について考えながら聞いたり、自分の疑問点や、相手の意図を確かめるために質問をしたりする。

- グループや学級で話合うこと

オ 身近な環境問題の解決策について、自分たちの主張の根拠や立場を明らかにして話し合う。

カ 自分たちの解決策についてより多くの友達に理解してもらおうといった相手意識、目的意識をもって話し合う。

4 指導に当たって

本単元の指導に当たっては、以下のような点に重点を置いて指導していきたい。

「つかむ」過程では、子どもたちなりの具体的な解決策が考えられるように会議のテーマを身の回りにおける環境問題に設定することで、本単元の中心的な活動である「子ども環境会議」に向けて子どもたちの学習意欲が高まるようにする。

「深める」過程では、「子ども環境会議」の前にポスターセッションを取り入れることで、自分たちの発表の仕方(主張とその理由付け、作成した資料の使い方、適切な話し方等)について、自己評価・相互評価を行いながら工夫していくことができるようにする。

「高める・味わう」過程では、自分たちの解決策を発表し合う「子ども環境会議」においては、お互いの考えのよさを認め合うことに重きをおくようにすることで、発表に対する充実感を味わうことが

できるようにする。

「まとめる・広げる」過程では、これまでの学習を振り返りながら、身近な環境問題の解決策について調べたりまとめたりした時の工夫や問題点について話し合うことで、情報収集や情報発信の際の留意点について気付くことができるようにする。

5 指導計画（全6時間）

※は、重点評価項目

過程	時間	主な学習活動	教師の指導	学び方	評価項目や評価方法
つかむ	1	1 前単元を振り返り、自分の生活や身の回りの環境について考える。	○ 本単元に対する学習意欲を喚起するために、前単元で学習した筆者の意図を想起しながら、身近なところにも環境に関する問題が多く存在していることに目を向けるようにする。【関・意・態】	ウ エ	○ 前単元の学習を生かしながら、身の回りにおける環境問題について考えることができたか。（発表、ワークシート）
		2 身の回りの環境に関する問題の中から、解決に向けて話し合う課題を選び、学習計画を立てる。	○ 子どもたちが問題意識をもって調べていくことができるように、身の回りの問題の中で、解決が容易ではないもの、考え方や価値観によって解決の方法に違いがあるものを選ぶようにする。【話・聞】		※ 問題解決に向けての学習計画を立てることができたか。（ワークシート）
深める	3 (本時3/3)	3 身近な環境問題に対する解決策について考え、同じ解決策をもつ友達同士でグループを組み、調べ学習を行う。	○ 子どもたちが考えた解決策を大まかに分類したり、ちがいを明確にしたりすることで、話し合いに向けての目的意識が高まるようにする。【話・聞】	ア	※ 問題を解決するための具体策について考えることができたか。（発表、ワークシート）
		4 調べた結果をもとに、自分たちの考える解決策についての発表資料を作成する。 ○自分たちの主張 ○主張の理由 ○調べた方法 ○主張を支える資料 等	○ 自分たちの主張がより説得力のあるものになるように、多様な資料を収集しながら、その中から自分たちの主張を支える理由となるものを抜き出すことができるようにする。【読】	ア	○ 収集した資料の中から自分たちの主張に必要な部分を見付け、抜き出すことができたか。（作成資料、ワークシート）
味高めうる	1	5 調べたことを基に作成した資料を使って、ポスターセッションを行う。	○ ポスターセッションを行い、自分たちの話し方や資料提示の仕方について自己評価・相互評価を生かすことで、より説得力のある発表ができるようにする。【話・聞】	アイ ウ エ	※ 他のグループや自分たちの発表について、発言内容に留意して、よさや改善点について考えることができたか。（自己／相互評価カード）
		6 「子ども環境会議」を開き、身近な環境問題についての解決策について話し合う。	○ 他のグループの発表について、自分たちの解決策と比べて聞くようにすることで、その違いやよさについて考えることができるようにする。【話・聞】	アイ ウ エ オ カ	※ 作成した資料を効果的に使い、自分たちの主張をわかりやすく発表することができたか。（発表）
まとめる	1	7 解決のための情報収集において努力したことや苦労したことなどについて話し合い、情報発信の際に気を付けることについて話し合う。 ○情報収集の方法 ○情報の伝え方	○ 補助資料として、違う情報媒体から同じ内容の記事を伝える部分を抜き出して比較することで、情報は送り手によって伝えられ方が違うことに気付くことができるようにする。【読】	オ カ	※ 情報収集や情報発信の際の留意点に気付くことができたか。（ノート）

【関・意・態】…【国語への関心・意欲・態度】、【話・聞】…【話す・聞く能力】、【読】…【読む能力】、【書】…【書く能力】、【言】…【言語についての知識・理解・技能】

6 本時 (4/6)

- (1) 目標 身近な環境問題の解決策について、ポスターセッションに進んで取り組み、発表の仕方のよさや工夫よさについて考えることができる。
 (2) 本時で高めたい「学び方」
 自分たちの考えのよさを理解してもらったために作成した資料を効果的に使いながら、相手意識・目的意識をもって発表する。

(3) 展開 教師の言葉掛け 予想される子どもの反応 ◆ **重点評価項目に応じた指導**

観(份)	主な学習活動と予想される子どもの反応	教師の指導
つ か む (5)	<p>1 前時の学習を想起し、本時の学習を促す。 調べたことを基に作った資料を使いながら、自分たちの考えがみんなに分かりやすく伝えられるか、ポスターセッションをしてみんなに発表を見てもらうんだね。 発表を友だちに聞いてもらいながら、どんなところを工夫したらよいか考えよう。</p> <p>2 ポスターセッションの方法について確認する。 グループを二つに分けて、前半と後半に分かれて発表し合うんだね。</p> <p>3 発表する時、発表を聞く時の視点について確認する。 ポスターセッションの時には、どんなことに気を付けて発表したり、友だちの発表を聞いたりすればよいか。</p>	<p>○ 設定した時間内に何度も発表し、より多くの子どもたちに発表を聞いてもらえようようにすること、多様な意見を取り入れながら、自分たちの発表をよりよいものにしていくことができるようにする。</p> <p>○ 発表する時、発表を聞く時の視点について確認すること、自己評価や相互評価が本時の目的に沿った効果的なものになるようにする。</p> <p>○ 「子どもも環境会議」に向けて、自分たちの解決策や発表の仕方よさや改善すべき点が明らかになるように、自己評価・相互評価カードを活用しながら、ポスターセッションを行うことができるようにする。</p>
深 め る (28)	<p>4 自分たちの解決策について、ポスターセッションの形式で他のグループの友だちに発表する。 作成した資料の使い方はどうか。 ○ 聞く人に伝えたいことが分かりやすく伝わる話し方ができているか。 ○ 自分たちの考えと他のグループの考えとの共通点や相違点は何か。 ○ 解決策とその理由付けは適切なものとなっているか。</p>	<p>◆ 身近な環境問題の解決策について、資料を効果的に使っているか、進んで発表し、自分たちの発表のよさや工夫よさについて考えられているか。</p> <p>◆ (発表・自己・相互評価カード) 【話す・聞く能力】 発言の仕方や資料提示に工夫が見られる子ども(班) 1 発言の仕方や作成した資料のよさを具体的に取上げながら称賞すること、他の子どもたちにもそのよさを広げることができるようになるように。また、主眼がよさや説得力のあるものになるように。多面的な理由付けや資料の工夫ができるよう助言する。 ◆ 自分たちの解決策について、うまく伝えられずいたり、一番伝えたいことは何なのかを確かめるように解決策を支えたりできる理由づけを助言する。 ◆ 自分たちや他の班のよさを見つけて認めさせながら、その子どもにとって見つけやすい視点にしようとして発表を聞くようにする。また、見つけられた時には、そのことを称賞する。</p>
高 め る (10)	<p>5 自分たちの発表に対する自己評価や友だちの評価を基にしながら、良かった点や工夫しなければならぬ点について話し合う。 ほくたちの資料は、もっと見せ方を工夫したいといかないか。</p>	<p>◆ 自分たちや他の班のよさを見つけて認めさせながら、その子どもにとって見つけやすい視点にしようとして発表を聞くようにする。また、見つけられた時には、そのことを称賞する。</p>
ま と め る (2)	<p>6 次時の学習について確認する。 今日の反省を生かして、「子ども環境会議」を開いて、自分たちの解決策を発表し合うんだ。</p>	<p>○ 説得力のある発表をしていたり、効果的な資料の使い方をしていたグループを取り上げて称賞することで、次時の学習への学習意欲が高まるようにする。</p>